

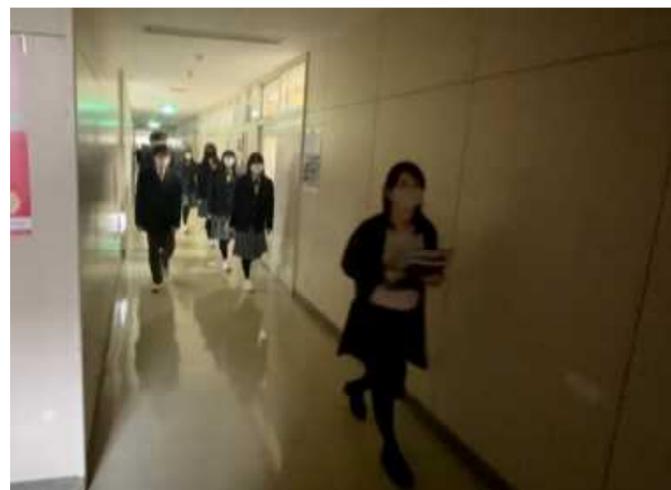


第2回避難訓練及び災害に関する講演会

コロナ禍のため9月に実施できなかった第2回避難訓練について、羅臼町幼小中高一貫教育推進協議会の支援のもと、宮城県多賀城高等学校から講師を招聘し、実施することができました。

根室沖(千島海溝沿い)を震源とする地震の規模M7.5～8.5程度の地震発生確率は、30年以内に80%程度とされています。海沿いに街区が広がる羅臼町民にとって、地震とそれに伴う津波被害の具体的な知識や情報を獲得することはとても重要なことです。

- 1 日時 令和3年11月5日(金) 13:20～15:10
- 2 会場 北海道羅臼高等学校 各教室・駐車場・体育館
- 3 対象者 北海道羅臼高等学校生徒及び教職員
羅臼町幼小中高一貫教育に係る関係者及び防災担当者
- 4 内容 第一部「火災からの避難」(13:20～14:00)非公開
第二部「自然災害について学ぶ」(14:10～15:10)★公開
①講演「東日本大震災における津波被害の実情について」
②講演「宮城県多賀城高等学校災害科学科の取り組みについて」
講演は、宮城県多賀城高等学校(*1)の生徒2名が講師となって生徒に向けて講義(*2)をします。
- 5 解説等 *1 宮城県多賀城高校は、日本で2校しかない「災害科学科」の設置校です。また、文部科学省のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)校及びユネスコスクールに指定されている。SSHでは「防災・減災をイノベーションする科学技術系人材を育成するカリキュラム研究」をテーマとした教育活動を進めている。ユネスコスクールでは、第9回ESD大賞ユネスコスクール最優秀校を受賞している。東日本大震災では、高台にある校舎は被害を免れたが、職員は避難所としての運営に奔走した。また、在籍した当時の生徒の多くは津波被害を受けている。
*2 東日本大震災の被害を直接自身が又は家族や身近な人が受けている生徒が、体験的で実感を持って地震や津波による災害について、画像や動画を使い、本校生徒に伝えてくれます。
- 6 その他 (1) 生徒の派遣費用等は、羅臼町幼小中高一貫教育推進協議会より支援を頂きました。
(2) 第二部(14:10～15:10)を羅臼町の教育関係者に公開しました。



左左：火災報知器の作動に対応する教頭と事務長
左右：放送の指示に従って整然と避難している様子
上：多賀城高校の長谷川さんと伊藤さんによる講演の様子
中左：羅高生の質問に答えている。
中右：災害等について質問している鈴木さん。
下：多賀城高校作成の避難体験ゲーム(HUG)のワークショップの様子。

支援して頂いた羅臼町教育委員会(幼小中高一貫教育推進協議会)の皆さま

講師等を引き受けて頂いた
宮城県多賀城高等学校の皆さま

ありがとうございました。

